



日本共産党前都議会議員 《東京民報折込み版》

そねはじめレポート

2012年 3月21日発行 第 37 号

そねはじめ事務所

114-0032

北区中十条2-11-6

Tel:3907-1135

Fax:3906-3225

3・17 北区革新懇総会 笠井衆議員が国会活動を講演

そねはじめ前都議・池内さおり衆院12区予定候補あいさつ
「経済提言」を広げ世論にすると決意

3月17日に、北区革新懇話会総会が開かれ、笠井亮衆院議員が、共産党の国会での活躍を生き生きと講演しました。

★他党議員の5倍質問★

予算議会では与党や自民党などが質問時間を共産党に譲るため2%の議員で質問の1割を行い、井上参議員が「ストレステストはまだ一次で安全ではない」と究明したり、山下議員が橋下市長の思想調査を徹底追及し反響を呼ぶなどヒットの連続だと紹介しました。

★野田政権の3つの実態★

笠井氏は、野田政権の実態が①国民の“火の車の家計”や、壊滅的な商店街”など悲痛な声が聞こえない鈍感内閣。

②国の財政難を理由に庶民に「我慢しろ」という冷酷な内閣

③消費税を上げたらどん底の不況になるとまじめに考えない不勉強内閣だと指摘しました。

総会では各団体が発言。そねはじめ前都議は、党の経済提言を区内のあらゆる分野と団体に持ち込み、説明し「政府がやる気になれば消費税増税抜きにやれるのに、なぜ10%増税しか言わないんだ」と北区の世論にしてこそ提言の本当の価値を生かすと表明しました。

★都政経験を生かし橋下と対決★

また大阪の橋下氏がねらう「都構想」が府民の地方税を大開発や知事の独断政治に奪うという財界優遇の危険なもので、石原知事の銀行で1千億円も失った都政の苦い経験を生かそうと訴えました。



革新懇話会総会で挨拶するそねはじめ前都議

「うちの30倍で除染無しとは」と都の対応に困惑!

都議団とそね前都議が首都圏自治体に放射線アンケート調査

党の都議団とそねはじめ前都議は都内53区市町村と関東近県の6県・5政令都市に放射線対策のアンケートと聞き取り調査を行ないました。

★都内で7割の37自治体が給食調査を決めており、都任せの北区の遅れが浮き彫りに。

★同じく8割自治体が空中放射線を測定しており殆どが北区より低い0.23μSvです。

★都に対し4割の自治体が都立学校や公園の調査・除染を

要望しています。

★都が水元公園などで地表に7μSvの濃度を発見しながら除染しないことに多くの自治体が疑問を持ち、そね前都議の問い合わせに「うちならすぐ除染しますよ」と即答した担当者も。

★近県でも、都よりきびしい基準で除染を行っているのが4県4政令市あり、いまだに1箇所も除染しようとしないうる東京都がいかにもひどいのがはつきりしました。

3・11さよなら原発集会に「原発ゼロ」のビニル傘を持って参加したそねはじめ前都議



石原知事の「東京湾に原発誘致してもいい」とは何を根拠にいえるのか！？ 大山とも子都議が予算委員会で追及

3月15日に都議会予算委員会で共産党の大山とも子議員が質問に立ち、前日の石原知事の東京湾への原発誘致を容認する発言の撤回を求めました。知事は「共産党は日本語の意味が分からない」などごまかし答弁と「(福島原発は)津波でやられたんだ」とヤジを連発。大山議員は「原発の地震への安全はストレステストでも証明されていない」ときびしく指摘しました。

《子どものために放射能減らす努力を放棄》

大山議員は都立公園で発見された7 μ Svの高濃度の放射能を除染拒否する都を「区や市なら子どもの服や手足に付着を防ぐため除染する」と追及。かつて革新都政の公害対策で活躍した大野環境局長は土からの内部被爆の危険を無視して空中放射線の基準以下で大丈夫だと、あくまで除染拒否に固執しました。

予算委員会で質問する大山とも子議員



★★シリーズ 若者はいま... <1>



青年の状況をどう打開するのか、様々な角度からレポートします。ぜひとも情報をお寄せください。
今回は十九日政府発表の「大卒の半数、高卒の三分の二が未就職か早期離職」という報道について。
 政府は「青年の希望と採用企業のミスマッチ」と、若者の大企業志望が悪いように報じますが、給料で中小企業の一・五倍、倒産リスクを見ても余裕のある大企業が正規を絞り、主に非正規で雇う傾向が問題です。内部留保を若者の正規雇用拡大と賃上げ、下請け単価増額に使わせましょう。

4月27日(金)午後7時
赤羽会館演説会
ぜひ、ご参加を

消費税増税へ大連立の動き、国政進出を企む橋下、TPPで全面的妥協の政府姿勢など激動の政局から打開を訴えます。

■小池晃政策委員長(予定)
 池内さおり 12区青年部長
 そねはじめ前都議会議員

そねはじめ交友録<その三十一>

バスケ青年・金型工から市議へ

昨年、小さい市でがんばっていた鳩ヶ谷がついに川口と合併し、4人の共産党市議から一人だけが新たに川口市議に当選しました。私の民青同盟(党と協力の青年団体)時代から仲間の野崎浩伸市議は勇退して、いまヘルパーの講習に通っています。

野崎さんは川口の金型技術者でしたが、北区の新日本体育(現スポーツ)連盟草分けの一人でバスケットボールに打ち込み、今も地元で子どもたちに指導しています。

私が北区の民青委員長として、政治活動とともにサークルやスポーツや学習活動、そして地域の青年にニュースで発信することの大切さを感じていたとき、スポーツのベテラン常任委員として、サークル担当の宇都宮くん(現区議)や保育・福祉分野のIさん、看護師で高校担当の佐藤さん(現野崎夫人)、ニュース・機関紙の桐生くんなどとともに活動を支援していました。この多彩なメンバーを結集していた北区の民青から数多くのカップルが誕生し、殆どが結婚して各地で共産党や組合の活動を支援しているのが、青年運動の財産として私の最大の誇りです。

30年前、赤旗まつり会場で北区の民青同盟の野崎くん(中央)とそねはじめ(その右)

